

## 『筑波大学技術報告』No. 34 の発刊によせて

本学では、技術職員の業績を広く学内外に紹介すること等を目的として、『筑波大学技術報告』を長年継続して発刊してきており、本年度は No. 34 が発刊される運びとなりました。

本報告書は「第 13 回筑波大学技術職員技術発表会」(平成 26 年 3 月 5 日開催)における発表論文等及び技術職員からの投稿論文により構成されております。これは、教育・研究支援活動に携わる多忙な日常業務の中で、本学の技術職員が創意工夫をこらした、長時間にわたる研鑽や努力の成果報告です。

また、本発表会は、法人化後に各部局に分属された技術職員の全学的な活動の一環として定着し、準備段階において、技術発表会への積極的な参加・発表の奨励・啓発や学外者の参加を呼びかける広報活動等、今後のあり方の議論を含めて、技術発表会の開催や運営に関して大きな努力が払われてきています。

技術職員の職務は実験科学等の教育・研究支援活動のみならず、教材の作成、教育・研究機器の設置・維持管理、資料の整理、さらに IT 関連技術等の広い範囲に広がってきました。技術職員の将来と職場環境等改善に向けて、平成 20 年には各部局やセンターに技術室、さらに全学技術委員会が設置されました。その後、環境・安全や情報管理、全学的な機器の一元的管理と研究・教育で養われた技術の継承と新たな技術開発などを主要ミッションと見据え、新たな技術職員組織体制の在り方について一層の検討を進めているところです。

本報告書の刊行により、本学技術職員の業績を広く学内外に紹介し、各方面より忌憚のない御意見や、御指導、御助言、激励等を頂くことができればと願っています。技術職員の育成と技術力を一層、向上させるために、各方面の御支援をよろしくお願い致します。

2014 年 3 月

筑波大学副学長 (研究担当) 三明 康郎